

平成29年度評価充実協議会プログラム

内部質保証を中心とした大学教育のあり方 －山梨県立大学の事例を中心に－



地域を愛し、地域を育てる大学

平成29年7月11日(火)

山梨県立大学理事長・学長
清水一彦

はじめに

1. 日本が誇れる高等教育産業とは？

- (1) 大学体育 — — — 学校体育とともに世界が注目
- (2) 卒業論文、卒業研究 — — — 最大のアクティブ・ラーニング
- (3) 少人数ゼミ、コホート集団(同一年齢集団) — — — 年数・年齢主義
- (4) 高等専門学校 — — — 世界に類がない

2. 日本が誇れない教育制度は？

- (1) 飛び入学制度 — — — 卒業を前提としない不都合
- (2) 学校五日制 — — — おとなの論理（週休2日制）で設定
- (3) 教員免許状更新講習 — — — 理念も内容もなしでスタート
- (4) 大学単位制度 — — — 質的保証の欠如

3. 今われわれがなすべきことは？

学生確保、就職  「教育の質保証」

1. 教育の質保証と教学ガバナンス

教育の質的転換政策

1975(昭和50)年 私立学校振興助成法

高等教育の拡充策から抑制策へ

2005年 高等教育のユニバーサル化
2006年 教育基本法改正

財政危機

18歳人口
の減少

グローバル
化

2013(平成25)年 第二期教育振興基本計画(閣議決定)

学修時間の確保と能動的学修の奨励

大学教育の質的転換のための条件

- (1) **カリキュラムを精選・厳選**すること → **3P**作業
- (2) **教授法を改善**すること → **FD・SD**の進化
- (3) **1単位を実質化**する → **GPA**の活用



教育の内部質保証の改革へ

1. 教学ガバナンスの改革
2. 3ポリシーの再策定
3. FD・SDの制度化
4. GPA等のサブシステム改革

山梨県立大学

教学ガバナンスの確立

—改革を実行するための全学的仕組みを構築する—

旧来

教学体制

教学システム

教育研究評議会

全学教育委員会

全学FD委員会

セメスター制
単位制度
3ポリシー
シラバス
授業評価

現在

教学体制

教学システム

大学質保証委員会

研究評価部会
自己点検・評価部会
認証評価部会

全学FD・SD委員会

教育研究評議会

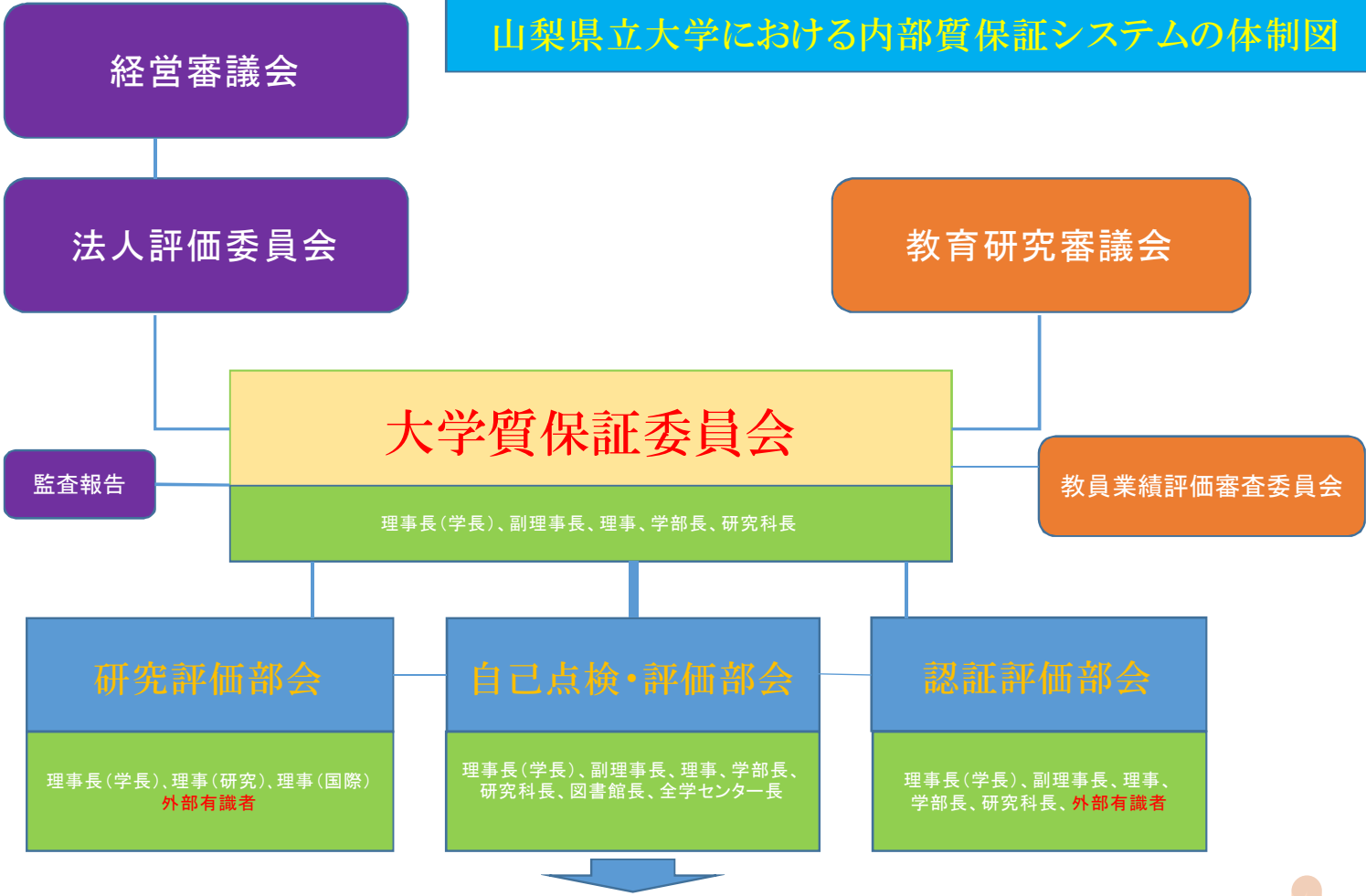
全学教育委員会

セメスター制
単位制度
新3ポリシー
シラバス
サブシステム

GPA、ナンバリング
新授業評価制度

①
体制の
整備

山梨県立大学における内部質保証システムの体制図



1. 学長をトップとする内部質保証に責任を負う**全学組織**を設置する。
2. 既存の全学委員会を**部会制**に編制し、部局等との有機的連関を確保する。
3. **少人数制**を採用し、機動性をもたせる。
4. **副学長**職も設置

②
検証・目的
の視点

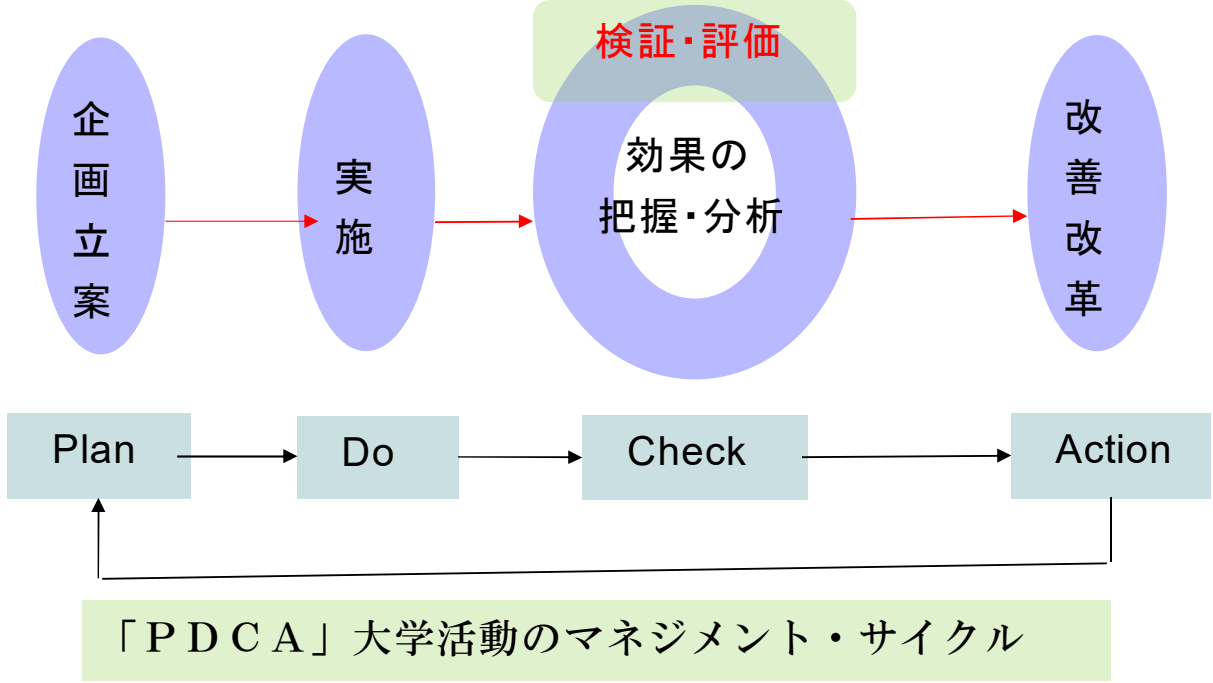
- 1. 目的においては、「学問の府としての**教育研究**」「**学修成果**としての学士力」「社会システムとしての**アカウンタビリティ**」が不可欠である。
- 2. 視点においては、**社会**(必要度)、**組織**(有効度)、**経営**(効率度)の視点が不可欠である。

検証・評価の目的

- 1. 県立大学として質の高い**教育研究**活動を展開する
- 2. 学生の視点に立った**学修成果**を実質的に保障する
- 3. 社会や地域に対する**説明責任**をきちんと果たす

検証・評価の視点

- 1. **必要度**—地域や県民のニーズへの合致
- 2. **有効度**—期待された成果の形成
- 3. **効率度**—適正な費用効果



③
 教学システム
 の構築

山梨県立大学におけるGPAシステム(2015年～)

評価	S										
素点	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90
GP	4.5	4.4	4.3	4.2	4.1	4.0	3.9	3.8	3.7	3.6	3.5

評価	A										
素点	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	
GP	3.4	3.3	3.2	3.1	3.0	2.9	2.8	2.7	2.6	2.5	

評価	B										
素点	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	
GP	2.4	2.3	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	1.7	1.6	1.5	

評価	C										
素点	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	
GP	1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	

評価	D
素点	59点以下
GP	0

科目	学生A	学生B
総合英語 I a (2単位)	79点 (GP=2.4)	80点 (GP=2.5)
情報リテラシー (2単位)	69点 (GP=1.4)	70点 (GP=1.5)
運動と人間-実技 (1単位)	79点 (GP=2.4)	70点 (GP=1.5)
GPA	2.0	1.9
素点平均点	75.7点	73.3点

学生AのGPA $(2.4 \times 2 + 1.4 \times 2 + 2.4 \times 1) \div 5 = 2.0$

学生BのGPA $(2.5 \times 2 + 1.5 \times 2 + 1.5 \times 1) \div 5 = 1.9$

山梨県立大学における 科目ナンバリングシステム(2016年～)

1	1	01	001	0
レベル(区分)	学科	科目群	通し番号	その他の分類

レベル

学部	共通科目	1
	専門科目	2
学部・大学院共通		3
大学院		4
教職		9

学科

全学共通科目・教職科目	0
総合政策学科	1
国際コミュニケーション学科	2
福祉コミュニティ学科	3
人間形成学科	4
看護学科	5
看護大学院	6

山梨県立大学における新授業評価(平成29年度～)

1. **カリキュラムマップ**で設定されているこの授業の「**学士力**」を身に付けることができましたか？
④そう思う ③ややそう思う ②あまりそう思わない ①そう思わない(以下同じ)
2. この授業を受講したことによって、この分野の**学びを深めたい**と思いましたか？
3. **教員の説明**はあなたにとってわかりやすかったですか？
4. この授業に対する**教員の熱意**を感じましたか？

<自由記述>

1. この授業の内容や方法でとくによかった点、この授業を受けて有益であった点があれば記入してください。
2. この授業をよりよくするための**提案**があれば記入してください。

<参考>新しい時代のタイム・マネジメントー**効率・能率から効果・貢献へ**ー

1. 「短期的効果」から「**長期的成功**」へ
2. 「私の時間」から「**私たちの時間**」へ
3. 「自分ひとり」の生産から「**協業協力**」による**相乗効果**へ

竹村富士徳(フランクリン・コヴィー・ジャパン)著『タイム・マネジメント4.0』プレジデント社、2011 より

新授業評価の実施要領

— 個々の授業開発から組織・制度開発への移行 —

1. マークシート方式
2. 全科目(卒研、ゼミ、実習等は除く)を対象
3. 教員の常勤、非常勤を問わない
4. 教員ごとではなく、学部・学科レベルで扱う
5. 複数教員担当科目は、1科目として扱う
6. 授業期間(最後の1~2回)内に行う
7. 複数の学士力設定科目は、学生は総合的に評価し、複数の学士力に評価を適用する
8. 1科目の設問1~4の平均は算出せず、設問ごとの平均は全学、学部、学科等ごとに算出する
9. 自由記述は画像化処理をする
10. 教員の自己評価(振り返り)は実施せず、学部等の判断による自己評価は妨げない
11. 授業評価結果の概括は、全学FD・SD委員会で行う

本学での取組み状況

3つの戦略目標

- ①意識変革 学内FDの講師役、「教職協働」
- ②スピード感 たたき台(下案)の作成
- ③実行性 学長所信表明(毎年度)、中期目標・計画、年度計画

1年目

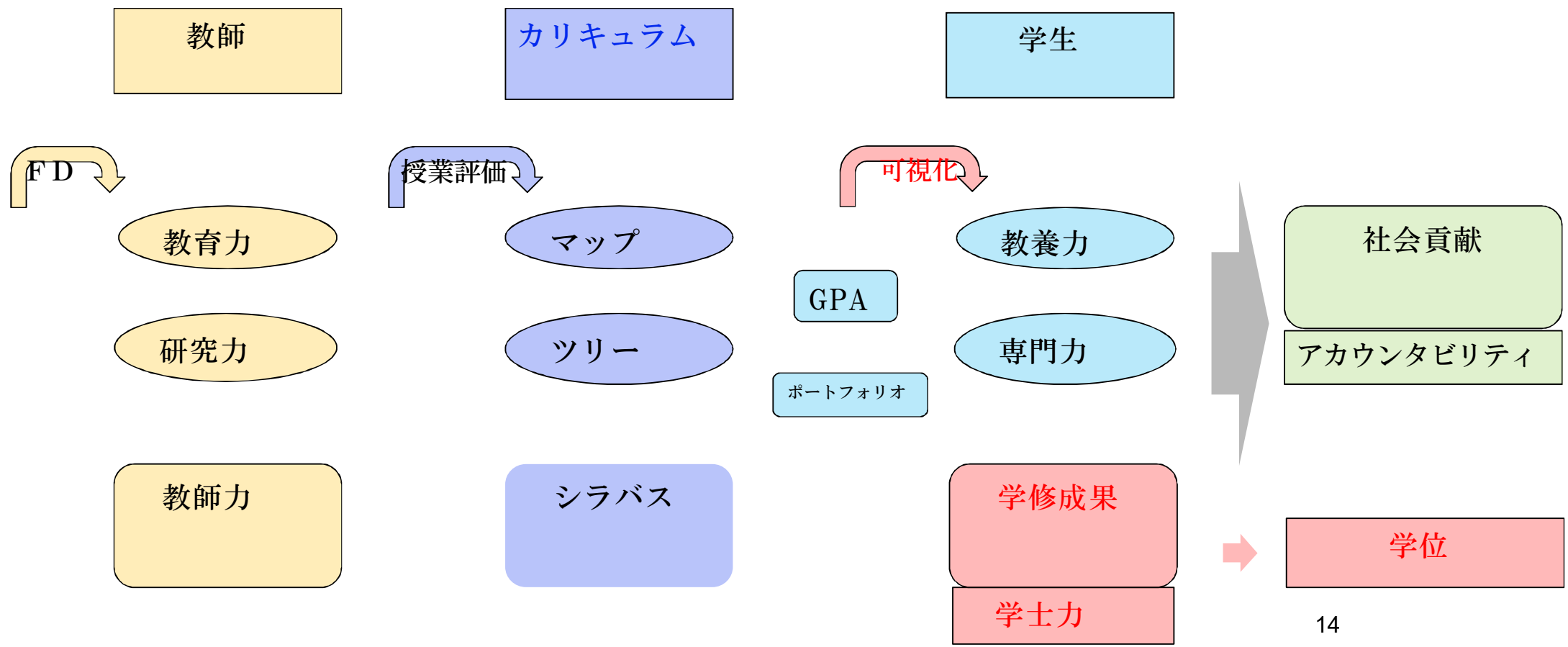
中期目標・計画づくり、教員業績評価試行(翌年完全実施、理事長表彰付き)
サブシステム(GPA、ナンバリング)策定・実施、規程・規則の改定 等々

2年目

内部質保証システム、新3P策定、カリキュラムマップ・ツリー、新たな学生授業評価
AOセンター設置、全学委員会の見直し、学長裁量経費設定 等々

質保証改革の考え方(大学の原点回帰)

—人材輩出のシステム構造—



2. 教育の内部質保証をどう進めたか？

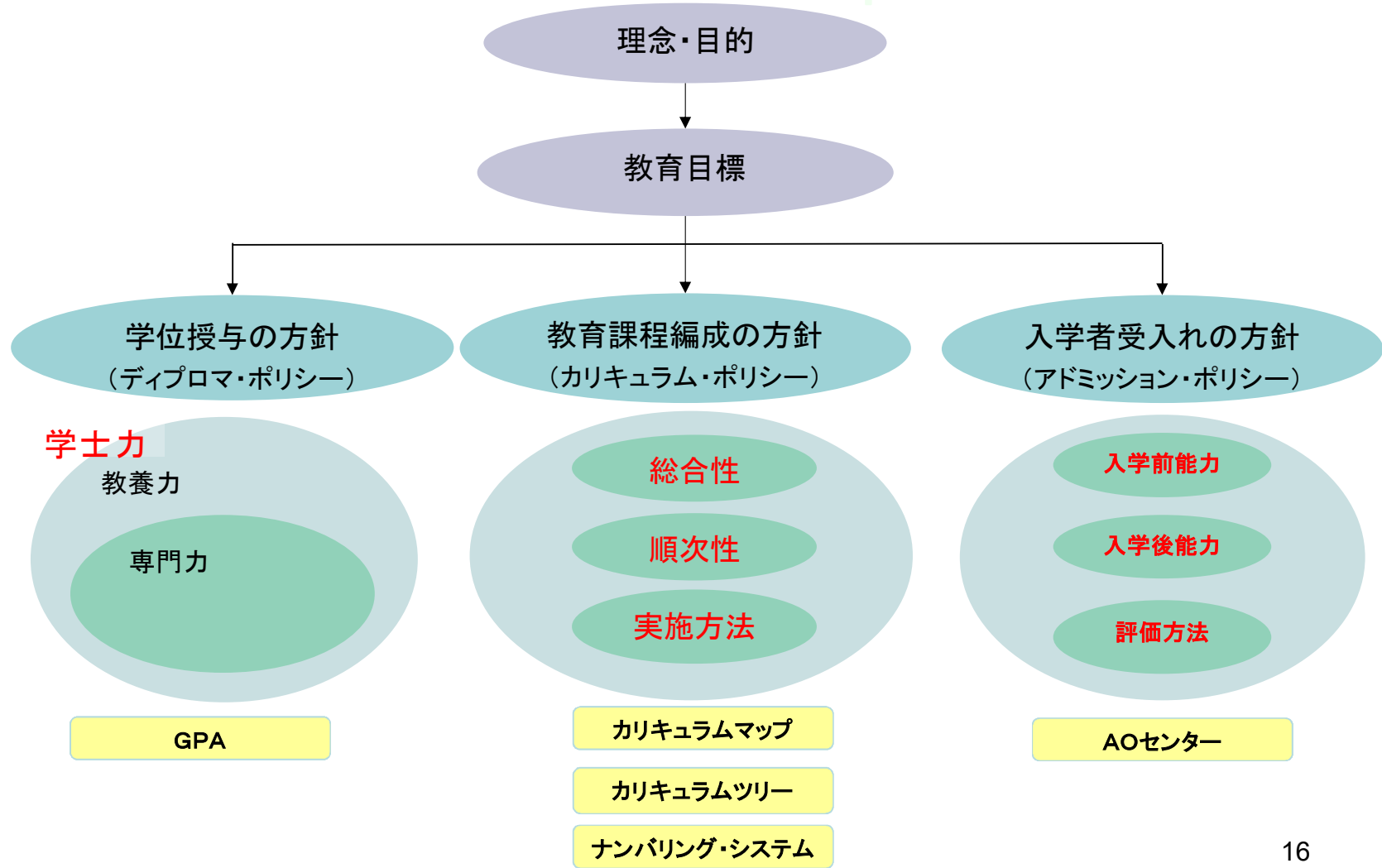
(1) 3ポリシー義務化の求めるもの

学生が在学中に身に付けるべく能力（学士課程共通の「学修成果」）＝学士力

- ①内部質保証システム(体制)をどう構築するか？
- ②検証・評価(P D C A)の目的・視点をどう定めるか？
- ③3つのポリシー(3 P)をどう再構築するか？
 - 1)学士力及び3ポリシーの設定
 - 2)カリキュラムマップの策定
 - 3)カリキュラムツリーの策定
 - 4)学修成果の測定と可視化

④
3ポリシー
の再構築

3ポリシー義務化への対応(イメージ図)



(2) 教学システムの策定

1. 学士力をどうとらえるか！

→ 学士基盤力 + 学士専門力 (学士教職力)

全学レベル

学部レベル

学士力とは？ (本学の場合)

- 学士基盤力
- 学士専門力、学士専門力(教職)

2. 学士力の具体的コンピテンシーの設定

大学レベル、学部レベル、学科もしくはコースレベル

→ 6～7個程度

3. 学士力の見える化、測定化

→ 授業評価、GPA、ルーブリック評価

国家試験合格率、地元就職率(中期目標の達成目標)

山梨県立大学における学士力一覧

山梨県立大学 学士力		
学士基盤力		
【全学共通】		
自然・社会・文化理解		
想像力・表現力		
実践力・問題解決力		
人間関係形成力		
自己学修力		
地域・国際コミットメント力		
学士専門力		
【国際政策学部】		
【地域マネジメントコース】	【国際ビジネス・観光コース】	【国際コミュニケーションコース】
国際政策教養力	国際政策教養力	国際政策教養力
能動的実践力	能動的実践力	能動的実践力
外国語活用能力	外国語活用能力	外国語活用能力
地域マネジメント基礎力	国際ビジネス・観光基礎力	国際コミュニケーション基礎力
地域マネジメント専門力	国際ビジネス・観光専門力	国際コミュニケーション専門力
専門的問題解決能力	専門的問題解決能力	専門的問題解決能力

【人間福祉学部】	
【学部共通】	
知識・技能・教養	
専門的知識・技術力	
共感的理解力	
地域貢献力	
実践力・問題解決力	
人間関係形成力	
【福祉コミュニティ学科】	【人間形成学科】
知識理解力	専門知識理解
実践力・問題解決力	創造的表現力
人間関係形成力	技能活用力
思考・技能	研究力
共感的理解力	人間関係形成力
地域貢献力	自己学修力
態度・志向性	社会貢献力
【看護学部 看護学科】	
教養を高める力	
自己学修力	
探究する力	
援助関係形成力	
思考力・判断力	
看護実践力	
連携し協働する力	
【教職課程】	
教職知識理解	
教職実践力	
自己学修力	
社会貢献力	

山梨県立大学における3ポリシーとカリキュラムマップ(全学)

理念・目的

「グローバルな知の拠点となる大学」、「未来の実践的担い手を育てる大学」、「地域に開かれ地域と向き合う大学」たることを希求し、人間と社会に対する学術的研究、豊かな人間性及び専門的な職業能力を備えた人材の育成並びに地域社会に対する実践的な貢献を通じて、豊かで活力ある社会の発展に寄与する。

教育目標

- 山梨県立大学は、郷土の豊かな自然と歴史や文化を大切に、山梨県を学びのキャンパスとして、ここに学ぶ者の豊かな感性を育みます。
- 山梨県立大学は、幅広い教養と高度な専門性を教授し、地域社会や世界で活躍できる人材を育てます。
- 山梨県立大学は、基礎研究から応用研究まで、独創的で多様な研究に挑戦し、学術の発展に貢献します。
- 山梨県立大学は、自ら学び、自らを培い、未来を切り拓く人材を育てます。また、緊密な人間関係を基盤に、知的刺激に満ちた教育環境を創ります。
- 山梨県立大学は、地域課題の解決に向けて積極的に取り組み、地域の発展に貢献します。また、アジアをはじめとする世界との連携をはかり、教育・研究活動を通じて国際社会の発展に貢献します。
- 山梨県立大学は、時代の変化に対応した個性豊かな魅力ある大学づくりを推進します。そのために、評価を通じて不断の改革を推進し、社会への責任を果たします。

<大学憲章>

学位授与の方針

本学の理念・目的及び教育目標に基づき、学生の学修成果が次の到達目標に達し、『学士力』を身に付けていると認められる者に、学士（専門分野）の学位を授与する。

- 全学に共通する「学士基盤力」を身に付けている。
- 各専門分野における「学士専門力」を身に付けている。

教育課程編成の方針

学士（専門分野）に係る学修成果を身に付けるための教育プログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- <総合性に関する方針>
- 各専門分野を構成する多様な研究領域のつながりを考慮した専門分野の「総合性」を実現する。
- <順次性に関する方針>
- 授業科目区分と履修単位を組み合わせ年次ごとに系統的な学修を促す「順次性」を実現する。
- <実施に関する方針>
- 学生の主体的な学びや深い学びあるいは能動的な学修を促す「体験性」を実現する。

入学者受入れの方針

本学の学位授与方針及び教育課程編成・実施方針を踏まえ、入学者選抜の方針を次のように定める。

- <入学前能力>
- 高等学校レベルの基礎的な知識・技能とともに、思考力、判断力、表現力及び協調性を身に付けている。
- <入学後能力>
- 入学後にグローバルな知と資格教育による専門職に必要な資質能力を身に付けることができる。
- <評価方法>
- 入学者選抜においては、調査書のほか資格・検定試験の成績を加味しながら、確かな学力を評価するための小論文と面接を重視する。

「学士力」

「学士基盤力」

学修成果		測定方法
自然・社会・文化を大切にするとともに、専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を自然・社会・文化と関連付けて理解している。(教育目標1・2)	自然・社会・文化理解	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「自然・社会・文化理解」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価(何科目開講し、何人が受講して、授業評価における学士力到達度の自己評価は平均何点だった) カリキュラムマップにて示す「自然・社会・文化理解」に係る科目の修得(何科目開講し、何人が受講して、何人が単位を修得した)
豊かな感性や想像力、表現力を身に付けている。(教育目標1)	想像力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「想像力・表現力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「想像力・表現力」に係る科目の修得
自身の未来を切り拓くために独創的に思考し、問題の発見・探究・解決に向けて行動することができる。(教育目標3・4)	実践力・問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「実践力・問題解決力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「実践力・問題解決力」に係る科目の修得
発展的な人間関係の形成に向けて、自己省察や他者理解に努めることができる。(教育目標4)	人間関係形成力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「人間関係形成力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「人間関係形成力」に係る科目の修得
自ら学び、成長する意欲や態度を備えている。(教育目標4)	自己学修力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「自己学修力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「自己学修力」に係る科目の修得 授業評価における学修意欲に関する自己評価(授業評価における学修意欲に関する自己評価は平均何点だった)
地域的・地球的課題に関心をもち、その解決を志向できる。(教育目標5)	地域・国際コミットメント力	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップにて示す「地域・国際コミットメント力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 カリキュラムマップにて示す「地域・国際コミットメント力」に係る科目の修得

分類	科目名	単位数	授業形態	自然・社会・文化理解	想像力・表現力	読解力・問題解決力	人間関係形成力	自己学習力	地域・国際コミットメント力		
科目数				00	40	14	10	85	40		
全学共通科目											
基礎科目	スタートアップ・セミナー	1	演習	0	0	0	0	0	0		
	外国語	総合英語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		総合英語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		総合英語 II a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		総合英語 II b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		英語コミュニケーション a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		英語コミュニケーション b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		中国語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		中国語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		中国語 II a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		中国語 II b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		韓国語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		韓国語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		韓国語 II a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		韓国語 II b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		スペイン語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		スペイン語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		スペイン語 II a	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		スペイン語 II b	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		情報	フランス語 I a	2	演習	0	0	0	0	0	0
			フランス語 I b	2	演習	0	0	0	0	0	0
	フランス語 II a		2	演習	0	0	0	0	0	0	
	フランス語 II b		2	演習	0	0	0	0	0	0	
	ポルトガル語 I a		2	演習	0	0	0	0	0	0	
	ポルトガル語 I b		2	演習	0	0	0	0	0	0	
	日本語 A		2	演習	0	0	0	0	0	0	
	日本語 B		2	演習	0	0	0	0	0	0	
	日本語 C		2	演習	0	0	0	0	0	0	
	日本語 D		2	演習	0	0	0	0	0	0	
	運動と健康	現代日本事情	2	講義	0	0	0	0	0	0	
		情報リテラシー	2	演習	0	0	0	0	0	0	
		生活と情報	2	講義	0	0	0	0	0	0	
		運動と人間－講義	2	講義	0	0	0	0	0	0	
		運動と人間－実技 I	1	実技	0	0	0	0	0	0	
	キャリア形成	運動と人間－実技 II	1	実技	0	0	0	0	0	0	
運動と人間－実技 III		1	実技	0	0	0	0	0	0		
運動と人間－実技 IV		1	実技	0	0	0	0	0	0		
生活と健康		2	講義	0	0	0	0	0	0		
キャリアデザイン I		2	演習	0	0	0	0	0	0		
教養科目	キャリアデザイン II	2	演習	0	0	0	0	0	0		
	インターンシップ	1	実習	0	0	0	0	0	0		
	人間と思想	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	人間と芸術－美術	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	人間と芸術－音楽	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	人間と芸術－文学	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	人間と文化	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	人間と心	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	人間と社会	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	社会と歴史	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	社会と政治	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	社会と経済	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	社会と法	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	日本国憲法	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	自然の理解	2	講義	0	0	0	0	0	0		
現代と地域の理解	宇宙の科学	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	生物の科学	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	生活と化学	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	ナノテクノロジーの基礎	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	環境論	2	講義	0	0	0	0	0	0		
キャリア形成	ジェンダー論	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	グローバル化論	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	山梨学 I	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	山梨学 II	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	日本酒の方言と山梨	2	講義	0	0	0	0	0	0		
キャリア形成	プレゼンテーション	2	演習	0	0	0	0	0	0		
	グループワーク&発表練習	2	演習	0	0	0	0	0	0		
	カウンセリング基礎	2	講義	0	0	0	0	0	0		
	発達と教育の心理	2	講義	0	0	0	0	0	0		

学部事例：看護学部「学士専門力」

看護学部		
学修成果		測定方法
自然や地域・社会への関心を持ち、幅広い教養を身につけることができる。	教養を高める力	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップにて示す「教養を高める力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「教養を高める力」に係る科目の修得
豊かな人間性を備え、自律した自己学修力を身につけることができる。	自己学修力	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップにて示す「自己学修力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「自己学修力」に係る科目の修得
人間や社会、及び健康について看護学の視点から探究することができる。	探究する力	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップにて示す「探究する力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「探究する力」に係る科目の修得
自己理解や他者理解に努め、看護の対象となる人々と援助関係を形成することができる。	援助関係形成力	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップにて示す「援助関係形成力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「援助関係形成力」に係る科目の修得
根拠に基づいて看護実践するための科学的思考力及び倫理的判断力を身につけることができる。	思考力・判断力	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップにて示す「思考力・判断力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「思考力・判断力」に係る科目の修得
人々の健康課題を解決する看護実践に必要な専門的知識・技術・態度を身につけることができる。	看護実践力	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップにて示す「看護実践力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「看護実践力」に係る科目の修得
保健・医療・福祉などのチームの一員として、人々と連携し協働することができる。	連携し協働する力	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップにて示す「連携し協働する力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「連携し協働する力」に係る科目の修得
社会の動向に関心を持ち、創造力や発信力をもって看護を取り巻く状況への変革を志向することができる。	変革を志向する力	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップにて示す「変革を志向する力」に係る科目の授業評価における学士力到達度に関する自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「変革を志向する力」に係る科目の修得

山梨県立大学 カリキュラムツリー

専門科目

教職科目

全学共通科目

基礎科目

教養科目

学部開放科目

外国語

総合英語Ⅱ
中国語Ⅱ
韓国語Ⅱ
スペイン語Ⅱ
フランス語Ⅱ

総合英語Ⅰ
英語コミュニケーション
中国語Ⅰ
韓国語Ⅰ
スペイン語Ⅰ
フランス語Ⅰ

アカデミック・
ジャパニーズ
日本語
A/B/C/D
現代日本事情

情報

情報
リテラシー
生活と情報

運動・健康

運動と人間
運動と人間
生活と健康

キャリア

インター
シップ

キャリア
デザインⅡ

キャリア
デザインⅠ

人間・文化

人間と思想
人間と芸術
人間と文化
人間と心

社会

人間と社会
社会と歴史
社会と政治
社会と経済
社会と法
日本国憲法

自然

宇宙の科学
生物の科学
生活と科学
モノづくり
デザインの基礎

現代・地域

環境論
ジェンダー論
グローバル化論
山梨学
日本語の方言と
山梨

コミュニケーション・心

プレゼンテーション
グループワークと自
己表現
カウンセリング基礎
発達と教育の心理

国際政策学部解放

国際関係論
平和と安全保障
文化とコミュニ
ケーション
譲歩社会論
情報ネットワーク
論
留学英語
共生社会論
韓国学概論
国際理解演習
(韓国)
ソーシャルデザ
イン入門

人間福祉学部開放

地域ボランティア
演習
コミュニケーショ
ン基礎
生徒幸福
生涯スポーツ

看護学部開放

リラクゼーション
救急法
災害支援
国際協力

スタートアップ・セミナー

山梨県立大学における「学士力」の測定方法

学部		学科		学籍番号		氏名		担任教員			
		学	士	基	盤	力		専門力		総合	判定
測定方法	人間と文化 人間と社会 山梨学 授業評価	人間と芸術 運動と人間 授業評価		人間と心 授業評価		実習科目 授業評価	共通科目群の GPA	専門科目群の GPA	卒業研究 ゼミ <u>ルーブリック</u> 評価	学士力	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分
評価						2.8 (参考)	3.2 (参考)	レベル 3			
自己評価	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	4.十分身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分				4.十分 身についた 3.身についた 2.やや不十分 1.不十分	

卒業論文とルーブリック評価

卒業論文ルーブリック評価(例)

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4 到達目標
先行研究	先行研究の整理ができず、参考文献や資料等の収集も不十分である。	先行研究の整理はできているが、その分析が十分でなく、資料やデータ収集にも問題がある。	先行研究の整理や分析はある程度できており、一次資料・データも収集している。	先行研究や参考文献をよく読みこなし分析しており、一次資料・データの収集も十分に行われている。
問題設定	問題が不明確であり、研究の目的や追究すべき課題がみえない。	問題はある程度明確であるが、研究目的・方法に関わる問題設定の枠組みが不明瞭である。	問題は明確であり、研究目的も明確であるが、方法論においてやや不十分さが残る。	問題は明確であり、研究目的や方法もしっかりしており、研究枠組みが十分に出来ている。
考察	研究というより紹介レポートであり、課題解決になっていない。	論の展開がやや不十分なところがあり、そのため考察が十分とはいえない。	論の展開は比較的わかりやすく、考察もある程度しっかりしている。	設定した問題を丁寧かつわかりやすく解き明かし、説得力ある形で考察をまとめている。

(活用しよう!)卒業論文の評価

単位認定は成果に応じて行うことができる。

3. 今後の大学教育のあり方

(1) 能動的学修と学士力

① 単位制度そのものが能動的学修を要求している

“受動的学習から学生を解放し、自学自習を奨励する”

= 詰め込み主義を基調とする監督教育からの脱却

大学の単位制度 = 授業 + 自学自修 (主体的学修)

② 高等教育のユニバーサル化 (マーチン・トロウ説)

「超多様性」「資格社会」「体験学習」

③ わが国の歴史にも能動的学修はあった

・最大の能動的学修は「卒業論文」

戦前: 科目履修 + 卒業論文

戦後: 学部では科目履修 (卒業論文は専門科目に)

大学院ではそのまま (科目履修 + 論文)

→ 伝統的な知識伝授型授業を否定するものではない

= 教員の「脳動」的活動を伴った戦略的な学習 (学修) 習慣の転換!

④能動的学修への転換

1) **学びの技法**(心で学ぶ)

ペアインタビュー、討議とまとめ方、コンセンサス、ブレインストーミング、カード法---

2) **体験学習の方法**

フィールドワーク、地域課題研究プログラム---

3) **授業デザインの技法**

学習課題と学びの到達目標の設定、授業計画、学習成果の評価法

⑤教師の役割・機能の変容

ティーチャー → **ファシリテーター・コーディネーター** → **イノベーター**

(2) 教学ガバナンスの重要性

アメリカにおけるリストラの姿 (1993. 9~1994. 1、ペンシルバニア大学)

アメリカ文明、地域科学、**宗教研究**、天文学、スラブ言語・文学の5つのデパートメント廃止宣言



理事会でのデパートメント**生き残り指標**

- ①強力なリーダーシップ
- ②**質的向上をめざした明確な将来計画の策定**
- ③全国的・世界レベルでの当該分野の存在意義や価値を明示すること
- ④客観的な指標として
 - 1) 専攻メジャー学生数
 - 2) 外部資金の獲得
 - 3) 全国的ランキング

ガバナンスの3つの要素

- ①パワー(Power)
- ②リーダーシップ(Leadership)
- ③スキンシップ(Skinship)

(3) 大学教育の将来展望と改革のキーワード

<大学教育の将来展望>

- ①戦後大学教育制度の総点検・見直し
→「狩猟民族社会の大学教育システム」から「**農耕民族社会の大学教育システム**」へ
- ②大学「システム」改革から社会「**政策**」改革へ
- ③インプット改革からスループット、アウトプットさらには**アウトカム**改革へ
- ④教育(education)から**学修**(learning)へ
- ⑤「**保護**」から「**淘汰**」の時代へ

<改革のキーワード>

教育の内部質保証、教学ガバナンスに加え

- ①戦略的プランニングから**戦略的intent**へ
- ②「点」から「線」、「面」への**接続関係(アーティキュレーション)**
- ③**教養教育**
- ④**学士力=学修成果**
- ⑤**学位プログラム**

おわりに

1. 日本の学校はなぜ忙しいのか？

「文化」と「教育」との関係から

→ 日本人の「雑食性」

2. 組織の2・6・2理論

上位2割が組織を動かしている。

下位2割も組織の安定性維持には貢献している。



中位の6割を尊重する評価システム

<参考>

大学評価・学位授与機構の試行評価事例

岡山大学教員個人評価の先導的事例

筑波大学教員評価・組織評価事例

ご清聴ありがとうございました！

機構並びに会員校の益々のご発展を祈念します。